

みんなで思いやりのある社会の実現に向けて



公明党議員団
山田 修司 議員



大蛇山まつりの警備体制

問 本市の一番のイベント大蛇山まつりで、トラブルがあった場合の警備体制は。

答 大蛇山まつりにおける警備については、安心・安全なまつり開催に向け、例年5月から7月にかけて大牟田警察署、消防本部、まつり振興会事務局の商工会議所及び市の4者が集まり、交通規制の区域や警備員の配置箇所及び人数、車両進入防止のためのバリケード設置箇所などについて協議を重ね、警備体制を決定している。

しかし、突発的な事案を想定したものとはなっていないことから、今回のまつり中止の対応を検証し、警備の在り方等の協議を進めていく必要があると考える。

市営住宅の学生入居

問 本市の市営住宅への学生入居を東谷住宅、船津住宅以外でも全市的に取り組めないか。

答 学生入居については、国の目的外使用の許可条件とし

て、本来の入居対象者の入居が阻害されないこととなっている。

ほかの住宅への学生入居の拡大の取組に当たっては、学生や市内の高等教育機関に対してニーズ確認を行い、許可権者である国へ相談しながら判断したいと考える。

子どもアドボカシー

問 弱い立場の子供が自由に意見表明する権利を守る取組、※子どもアドボカシーに積極的に取り組むことが必要かと思うが、本市の現状と今後の取組は。

答 本市の取組として、大牟田市こども計画において、子供の意見を聞き、対話をしながら子供に関する施策を進めていくこととしており、市長との意見交換会や「こどもいっつでも意見箱」の取組も開始した。また、課題を抱えた子供や家庭への支援を行う中では、子供の権利を守り、子供に寄り添い、子供の立場で考え、丁寧に対応するよう心がけている。

今後においては、子どもアドボカシーの理念や役割について、子供や子供に関わる全ての人々の理解を深めていく必要があると考えており、関係機関を対象とした様々な研修を通じて、子供の権利保障に対する理解を深めていきたい。

問 子供に関わる全ての大人の意識啓発や理解の促進が不

可欠であり、子供の権利や子どもアドボカシーに関する研修、普及啓発を進めてはどうかと思うが、市長の見解は。

答 全ての子供が健やかに成長し、自立できるためには、子供が持つ権利を尊重し、子供の最善の利益を第一に考えることが重要だと思う。このため、学校、地域住民、事業者など、子供に関わる方と共に子ども・子育ての応援に取り組む必要がある。特に子供の権利や子どもアドボカシーに関する意識啓発は重要な取組と考えている。

こうした中、本市においては、大牟田市子ども支援ネットワークの取組の一環として、福祉、学校関係者や地域など、異なる分野の支援者を対象に、子供の支援に関する研修を毎年実施している。

今後においても、地域社会全体で子供たちを支える意識を醸成するため、様々な機関と連携し、研修会や講演会等を通じて、子供の権利や子どもアドボカシーの重要性、このことを広めていくための取組を進めていきたい。



※子どもアドボカシー…子どもが話したいことを自ら話せるように支援したり、必要な場合には、子ども依頼または承諾を得て子どもの思いや意見を代わって表明すること。(子どもアドボカシー学会HPより)